

## 暑くて温かくて。

大阪大学 3 回生アラビア語専攻

神森友里

2013 年 9 月 2 日朝 5 時前、ついに私たちはクウェートにたどり着いた。国内線すら乗ったことなく、生まれて初の海外だった私には何もかもが新鮮だった。寮に向かう途中に見た大きくて丸い朝日は今でも鮮明に覚えている。最初の一か月は生活に慣れる期間だったが、その中でスタートした大学生活は大変刺激的だった。そして…あっという間の一年。明日、私はクウェートを去り日本に帰る。この一年をアラビア語学習面、生活面に二つに分け振り返る。

### 【アラビア語学習】

日本でアラビア語を学んでいたとき、自分の言葉で意見を言うことが思うようにならず、リスニングも全然できなかった。また語彙力に不安があった。そこで一年の目標を「話す、聞く力をつけコミュニケーション力を養うこと、語彙力を増やし辞書なしで読める記事を増やすこと」に決め学習に励んだ。第一セメスターではネイティブのアラビア語は勿論、添削、プレゼン発表などを通して新しいことをどんどん吸収した。第二セメスターからは一つ上のクラスにも出席し、レベルの差に愕然とし落ち込んだ。予習しても授業が難しく、知らない単語だらけで分からない。そんな時、私を救ってくれたのはある国から来た友人だった。私の部屋に来て何時間も解説して勉強してくれた。効率的な覚え方、難易度の高い記事の読み方を教えてくれたのも彼女だった。最も大変なサマーコースも彼女のおかげで、しっかり自分で噛み砕いたアラビア語として理解できた。授業自体はしっかり指導して下さる先生もいる一方、休講の多い先生もいるため、ときには満足いかない授業もあった。しかし、こうして振り返ると毎日の大学生活が本当に貴重で、この経験なしに今の自分はあり得ないと断言できる。

生活を通してのアラビア語習得を考えると、私もクウェートならではの問題に直面した。それは「英語を使える機会に満ちている」ことだ。この理由の一つ目は、この国の海外労働者の割合の多さだ。約 7 割が出稼ぎ労働者のため私の学ぶフスハーは通じない。何度も笑われた。中にはクウェート方言なら通じるものもいたが簡単な言葉しか話せず、また彼らのなまりの強いクウェート方言は全く理解できなかった。仕方なく彼らとは英語で話した。二つ目にクウェート人は英語が堪能なことだ。やろうと思えば英語だけでも生活できる。逆にフスハーを話したがない人も多し。クウェート方言ならみんな喜んで応答するが、フスハーで話せば英語で返されるという経験も多々ある。クウェート方言のクラスに出席していたため簡単な言葉、文は理解できるのだが友達意思疎通を難くこなせるレベルまで達せなかったとはいささか心残りである。

最初に立てた目標に関して言えば達成できたように感じる。しかしそれ故に新たな目標もできた。現状に満足せず常に向上心を持って今後もアラビア語習得に励みたい。

### 【生活面】

報道されるアラブのニュースは紛争やテロなど物騒なものが多いが、私はだからこそ伝えたい、アラブ

人の寛大さ、大きな大きなホスピタリティーを。そしてこんなにも日本に関心を持ち友好的に考えてくれる人がいることを。

クウェート人は家族の絆がすごく大きく、数世帯一緒に暮らしていることも多いため家に遊びに行くと、もはやお城と呼んだ方がいい豪邸で歓迎してくれ、アラベスク模様の入った綺麗なインテリアの応接間に通される。細工の細かい食器や絨毯に魅了された。食事もお母さんのおいしい手作りアラブ料理をご馳走になり、私を囲んでにぎやかな団欒のひと時を過ごす。帰り際には寮の食事に飽きないようにと、持ちきれないほどのお土産や料理お菓子を手渡してくれる。「あなたは私の子供よ、いつでも頼りなさい。遠慮なんてしないで。」こんな言葉をかけてくれ、いっぱい抱きしめてくれた。日本人は珍しいらしく大学やモールで見知らぬ人にも頻繁に声をかけられ、フレンドリーに話しかけられる。友達にはここで書けないほどお世話になったが、一番感動した出来事を伝えたい。

胃を中心に体調を数日崩したとき、それを知った友人が寮の受付に袋を手渡した。

受け取り中身を確認するとわざわざ出前で頼んだお寿司を日本の重箱風のお弁当箱に詰め布で包み、私の好物の果物と手紙とともに入れてくれていたのだ。「日本と違って苦しいかもしれないけど少しでもこれ食べて元気になってね。」という温かい言葉に涙が出た。

確かに交通事情や事務手続きの遅さなど、日本とはかけ離れた常識もある。クウェートの夏はオープンの中みたくて、夜でさえドライヤーの熱風に吹かれているようだ。何度も日本が恋しくなったがそのたびに助けてくれたのはここで出会った人々だった。日本を大好きと言ってくれる人がこんなに多いのに、日本を知る機会が少なく感じた。だからこそ大使館のイベントのお手伝いができるときは全力でサポートした。自分がアラブと日本の架け橋になれたような気がして、大きな喜びを感じた。

クウェートでの感謝の気持ちを帰国後しっかり還元したい。日本に住むアラブ人を助けることはもちろん、この留学の志望動機でもあった「報道からは見ることが出来ないアラブ人の姿」を日本人に伝えていく。

最後に。このような機会をくださったクウェート政府、クウェート留学に当たり常に心強いサポートをしてくださった在クウェート日本大使館の皆様には深く御礼申し上げます。

